



## みんなで考える 未来の公共施設

第3回

### 人口問題が公共施設整備に影響します

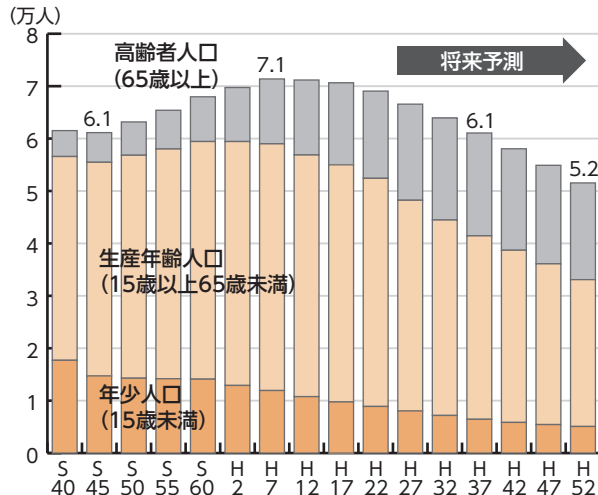
旭市の人口は微増を続け、平成7年に7.1万人のピークを迎えましたが、その後は減少に転じ、今から10年後の平成37年には6.1万人に、25年後の平成52年には5.2万人になると予測されます。

平成37年の予測では、総人口は昭和45年と同じでも人口構成が大きく異なることが確認できます(右表)。将来人口を世代別に見ると、高齢者人口が増加し、生産年齢人口と年少人口が大きく減少していきます。

社会を支える世代である生産年齢人口が減少することは、経済全体の縮小、市の税収の減少に結び付くことが想像できます。一方で、少子高齢社会に対応するための費用は、今後も増えていくことが予想されます。

このような社会背景の下で、昭和40～50年代に建設された施設は、間もなく建て替え時期を迎えていきます。

(表) 旭市の人口推移と将来予測



私たちは将来に向けて、人口減少や少子高齢社会に見合った施設の在り方や、限られた財源の中で施設を維持更新していかなければならないことを、今から真剣に考えていく必要があるのです。

固行政改革推進課行政改革推進班(☎62-5345)